

中北.com

地域教育情報紙

中北教育事務所
地域教育支援スタッフ

TEL 0551-23-3046

FAX 0551-23-3013



チュウホクドットコム

中北の地域社会 (COMmunity) の心の交流 (COMmunication) をめざします

「生きる力」を支える家庭・地域の教育力の 向上を目指して

中北教育事務所
所長 松野 実

ノーベル医学・生理学賞を受賞された大村智博士が、郷土山梨について語った際に、「故郷はどこに行っても忘れられない場所。これほど眺望がきれいな場所はない」と山梨の眺望を讃えられていましたが、甲府盆地を囲む山々も新緑の鮮やかさが映える良い季節となりました。皆様におかれましては、日頃より、中北教育事務所の地域教育業務にご理解とご協力をいただいておりますことに、心より感謝申し上げます。

さて、平成28年度がスタートして1ヶ月余りが過ぎました。今年度の中北教育事務所のスタッフは、所長、副所長、次長、昨年度設置された地域学力向上推進幹、地域教育支援スタッフ2名、学校教育6名、総務4名の計16名に、非常勤職員として、スクールソーシャルワーカー(SSW)4名、若手教員グローアップ事業におけるアドバンスティーチャー4名を含む総勢24名です。事務所スタッフの総力を挙げて、各種団体との連携を図りつつ、家庭教育・地域教育・社会教育の振興・発展のため取り組んでいきたいと思っています。特に今年度、中北教育事務所の地域教育においては、学校教育における「『生きる力』の育成」を支援すべく、家庭教育・社会教育の更なる充実に取り組んでいきたいと考えています。

ここで、今年度、皆様のご理解とご協力をいただきながら推進していく主な事業・業務を紹介させていただきます。

◇地域教育推進事業

- ①「地域教育推進連絡協議会」の組織・運営・開催(峡中地区、峡北地区)
- ②「地域教育フォーラム」(峡中地区・峡北地区合同)の企画・運営・開催
- ③「中北.com」(地域教育情報誌)の発行

◇教育関係担当者の連携

- ①「社会教育担当者会議」(県・管内市町の開催)
- ②「地域教育スタッフ会議」(教育事務所の開催)

◇保・幼・小・中・高・特・大の連携事業

- ①異校種間授業参観「公開できる授業等一覧」冊子の作成・運営
- ②「子育て・教育相談窓口一覧」の冊子の作成・配布
- ③異校種間のキャリア教育情報交換(高校生インターンシップ推進事業)

◇生涯各期の教育推進事業への参加・支援・運営協力

- ・子育て支援リーダー実力アップ講座
- ・放課後子ども教室推進事業
- ・青少年育成関係事業
- ・山梨ことぶき勸学院 等

平成27年度末の人事異動に伴い、地域教育支援スタッフの野崎主幹が北杜高校へ転出し、韮崎高校より新たに矢崎主幹を迎えました。今年度も2名態勢となりますが、他の教育事務所との連携を図りつつ、県の社会教育事業の円滑な実施に努めるとともに、域内の関係者と課題を共有し、連携を推進する中で様々な事業・業務に全力で取り組んで参ります。

本年度も関係各位の皆様には、ご支援ご協力をよろしくお願いいたします。



勸学院生の皆さん、御卒業・御入学おめでとうございます

—山梨ことぶき勸学院 27年度卒業式 28年度入学式—

勸学院の学びを生かして

3月17日、コラニー文化ホールで平成27年度山梨ことぶき勸学院の卒業式が行われました。中北教室では44名・甲府教室では55名が学院長である阿部教育長より卒業証書を授与されました。卒業生代表の甲府教室の野澤次男さんは、「卒業後は地域の一員として、勸学院で学んだ2年間をよりどころに、地域社会のリーダーとして貢献していきたい」と、力強くあいさつをし、厳粛な中に温かさのある卒業式となりました。



卒業式

4月15日、後藤知事ほか多くの来賓が参加するなか、コラニー文化ホールで平成28年度山梨ことぶき勸学院の入学式がありました。学院長である守屋守・新教育長より中北教室41名・甲府教室52名の入学が許可されました。入学生を代表し甲府教室の水石照夫さんが伝統ある勸学院への入学の喜びと決意を述べました。勸学院での学びを生かし、地域貢献、ボランティア活動につなげ、「支えられる高齢者から支える高齢者へ」と、ことぶき勸学院の目的も確認され、希望と意欲に溢れる入学式が終わりました。



入学式

講演会「ダニエル流生き生き生涯学習」

3月17日、卒業式の午後は、テレビでも活躍されているタレントであり山形弁研究者でもあるダニエル・カール氏から「ダニエル流生き生き生涯学習」と題して講演がありました。

17歳で留学生として日本を訪れたときから、自分自身の生き方で「ポジティブ・シンキング」が一番大事だったと語ってくださいました。

ただ気になるのは、バブル崩壊後に日本人の自慢心と謙遜のバランスが崩れてネガティブ・シンキングになっていることで、両方あれば、会話にもメリハリが生まれ、活力が出てくるのだと思っているそうです。日本人は自慢しなくなっている。自慢しないとその良さを忘れてしまうから、もっと自慢することで日本の良さを再発見して欲しい。

例えば、日本の交通網は世界一である。全国どこへでも一分刻みのダイヤで出かけることができる。それを今の日本人は誇りに思っていない。時間どおり

に動いて上手くいっているときは、駅員や運転手に感謝の言葉をかけないのに、ちょっと遅れると怒る。これが自慢心と謙遜のバランスが崩れている例だ。乗り物が遅れて文句を言うのなら、普段同じだけ褒めていなければいけない。



日本の水道や治安、教育制度も世界一だと思う。皆さんは感謝の言葉をかけていますか？

自分たちが持っているものを良いものだと認識して、自慢して欲しい。自慢しないと良いものが普通のものになり、当たり前のもものになり、どうでも良いものになってしまう。

自慢心と謙遜のバランスを取り戻せば、元気な日本に戻れると思う。ぜひ皆さんも身の回りにある「誇れるもの」を探して、大切にしてくださいと学院生に呼びかけました。

講演会「見えない子どもの貧困」

入学式の午後は、NPO法人フードバンク山梨の米山けい子氏の講演がありました。

もやしで具材を増やしラーメンを分け合う子どものニュース映像ではじまり、フードバンクの活動紹介となりました。気付にくいのですが、私たちの身近なところ



で、明日の食料にも困窮する貧困があります。フードバンクの食料支援の活動が、精神的な支えとなっていると、支援を受けた方々のお便りの紹介もあり、心に残る講演会でした。

圧巻！ 笛吹高校 翠櫟太鼓部



3月17日勸学院の異世代交流プログラムがありました。今回は笛吹高校の翠櫟(すいれき)太鼓部による和太鼓演奏が披露されました。

勇ましく晴れやかな姿に身を包み、元気な和太鼓の響きを楽しませてくれました。高校生の若さあふれる勇壮な演奏と力強い演技で、勸学院の生徒の皆さんも、“孫”の活躍に拍手喝采でした。

子どもの貧困対策・学校応援団・子育て親育ち ～社会教育課の本年度事業より～

本年度の社会教育課の主な事業を紹介します。

①山梨ことぶき勸学院の入学式のあとの米山氏の講演でも触れたように、見えない貧困は身近にあります。この現状を受け、本年3月、県は「やまなし子どもの貧困対策推進計画」を策定し、行政、NPO、学校、SW等と組織的に連携し、貧困による学力格差への対応も含め対応をすすめます。

②次に、地域全体で学校教育を支援し、地域の教育力の向上をねらう「やまなし学校応援団育成事業」、また放課後の子どもたちの安全・安心な居場所づくりと豊かな体験活動を推進する「放課後子ども総合プラン推進事業」に引き続き取り組みます。

③子育ての不安や悩みを解消し、自信をもってわが子に向き合い子育ての楽しさを実感できる「ワクワク子育て親育ちプログラム」学習講座が定員30名で、10月より12月まで全6回、開かれます(県立大学)。受講申込みは県社会教育課へ(8月下旬より県社会教育課HPに募集要項掲載予定)。なお、10月の地域教育

フォーラム(次ページ参照)ではこのプログラムの紹介と活用について研修会を開きますので、ふるって御参加ください。 また、PTA学習会等で活用できる「やまなし『親』学習プログラム」活用促進もお願いします。

このほか、しなやかな心の育成プロジェクト「心をはぐくむ『あいうえお』運動の推進」や、家庭での読書活動を促す「家読(うちどく)推進」、公立図書館等を活用した「子どもの読書活動推進事業」、「やまなし読書活動推進事業」など読書活動推進事業、八丈島での自然体験学習おこなう「やまなし少年海洋道中」なども引き続き行います。

中北教育事務所・地域支援スタッフは2名ですが、これらの事業の窓口です。

情報提供や相談事などありましたら気軽に御連絡ください。都合がつけば、実際に現場を訪問したいとかがえています。

どうぞ、一年間、よろしくお願いいたします！

「生きる力（学力）」を支える家庭・地域の教育力

少子高齢化とグローバル化が急速に進展する社会で「たくましく生きる力」をすべての子どもたちに育むことは、今日の学校教育のテーマとして多くの方に共有されているところです。関係各位の御理解と御協力のもとに、中北教育事務所では、学校教育スタッフが授業を中心とした学力向上を重点に生きる力の育成に取り組み、地域支援スタッフは子どもの学力、生きる力の基盤を支えている家庭、地域の教育力と学校との連携推進に取り組んでいます。

家庭における食事、運動など健康習慣や読書の習慣、地域の自然や地域行事での体験活動は、子どもが学習に向かう力（興味・関心・意欲・態度等）を育てます。また、人とふれあい、思いを伝え合うコミュニケーション力や、限られた時間や資源をもとに創意工夫したり、忍耐する力など、人として生きる力（人間力）を身につけさせます。この力こそ生涯、人を支える力です。全国学力調査では、家庭や地域が安定して支えている学校が高い数値を出しています。このように家庭、地域の教育力は学校教育の基盤なのです。

コミュニティスクールなど地域と連携した学校づくり

が、いま全国的に広がっています。背景には、「これからの教育は学校だけでは進められない、家庭、地域が一体となり学校を支えることが必要である」という認識があります。「わが地域の学校」という一体感が、いま社会で求められているのです。

峡北・峡中合同地域教育推進連絡協議会は、学校、家庭、地域の連携推進のため、甲府・中巨摩・北巨摩の保育・幼稚園から、小中高特別支援学校までの教職員と保護者の代表、管内7市町の教育委員会、警察、女性団体、青少年育成団体、青年会議所等広く120名を超える委員で組織され、年3回の研修会を開催しています。委員さん以外にも広く呼びかけます。特に秋の地域教育フォーラムでは400名を超える参加をいただいております。

平成28年度は以下の研修を予定しておりますので、多くの方の御参加をお願いします。



平成28年度テーマ「子どもを育む」

<p>第1回地域教育推進連絡協議会 学校も地域もハッピーに！ 昭和町立押原小学校長 太田 充 氏</p> <p>押原小学校はコミュニティスクールの指定を受け、「学校も地域もともにハッピーになる」をモットーに地域と連携した学校づくりに取り組んできました。</p> <p>ここには大上段に構えず、自然な形で無理なくとりくむ学校の姿がありました。地域と学校が連携する一つの事例として紹介いたします。</p> <p>質疑応答の時間も十分とりますので、参加された方々が、それぞれの立場で次のステップが踏み出せる機会になればと期待しています。</p>	<p>地域教育フォーラム (第2回地域教育推進連絡協議会) ワクワク子育て親育ち 山梨県立大学特任教授 池田政子氏</p> <p>子育ての不安や悩みを解消し、自信をもってわが子に向き合い、子育ての楽しさを実感できる「ワクワク子育て親育ちプログラム」が作成され公表されました。</p> <p>「自己肯定感を高めることをコンセプトとした教材」で、保護者会やPTAの研修会や授業などで幅広く活用できるものです。</p> <p>作成の中心となった池田政子先生を招き、このプログラムの活用方法を学び、「子育て＝大変」という意識から、「子育て＝楽しみ」という意識に変えられる研修会になればと計画しました。</p>	<p>第3回地域教育推進連絡協議会 子どもの虐待・心のケア 山梨県立大学教授 西澤 哲 氏</p> <p>平成26年度の児童虐待は、前年度比20.5%増の88,931件にのぼり過去最多を更新し、社会問題となっています。背景には所得格差の拡大や孤立家庭の増加も指摘されます。</p> <p>児童虐待の研究では第一人者である西澤哲先生は、専門家や関係機関に任せるだけでなく、地域全体が自分たちの問題として取り組むことが大切と語ります。</p> <p>虐待の実態を学び、地域全体でどう子どもや親をケアしていくかを学び、支援をひろげる会にしたいと考えています。</p>
<p>日時： 6月23日(木) 会場：北巨摩合同庁舎</p>	<p>日時： 10月27日(木) 会場：日本航空学園</p>	<p>日時： 2月23日(木) 会場：北巨摩合同庁舎</p>

平成28年度 『中北.com』 No.1

編集・発行 中北教育事務所 地域教育支援
担当 飯田 矢 崎

〒407-0024 韮崎市本町4-2-4

電話 0551-23-3046

Fax 0551-23-3013